

ホタルが生み出す幻想的な世界へ

こぶしの里でホタル観賞

「竹間沢ほたる育成会」の活動により、6月上旬から中旬にかけてこぶしの里でホタルが「光の舞」を披露します。この時期にだけ見ることが出来る「光」をぜひご覧ください。

こぶしの里を舞う「ゲンジホタル」。昨年6月に撮影。天候にもよりますが、ホタルが作り出す幻想的な光を体験することができます。(写真は5枚重ねています)

飛んでいるのはオスが主体

飛んでいるのは、ほとんどがオスです。オスが舞い上がると、メスは草陰からはい上がり、オスの眼につきやすい葉の上で光り始めます。それを見つけると、オスはぐるぐると旋回を始めます。

ホタルの短い一生

ホタルが成虫になってからの寿命は7日から10日程度しかありません。そのわずかな期間、ホタルたちは私たちに光の舞をプレゼントしてくれるのです。

ホタルが舞う時期

天候などの条件により変動する可能性もありますが、今年6月9日〜17日ごろ、こぶしの里でほたるを見ることができるようでしょう。

ホタルの光を見る ことができる時間帯

ホタルは一晩中飛び交うものではありません。午後7時30分から9時ごろが活発に活動する時間帯です。

観賞の際の注意点

- ・ホタルは光に敏感です。カメラのフラッシュや懐中電灯などは、控えてください。
- ・川を汚すとホタルが見ることができなくなります。ゴミを捨てないでください。
- ・近隣には住宅があります。大きな声を出したり、周りに迷惑がかかる行為はやめましょう。
- ・路上駐車は周囲に迷惑がかかります。決して多くはありませんが、駐車場がありますので、案内看板に従って駐車してください。

【豆知識】 ほたるの数え方

一般にホタルの数え方は、1匹・2匹と「匹」で数えられることが多いですが、本来は、昆虫の数え方と同じで、1頭・2頭と「頭」で数えます。

次のページではホタルを今の時代に残す活動を行っている「竹間沢ほたる育成会」などを紹介します。



ホタルの光の謎

ほたるの光は、プロポーズの合図と言われています。オスは黄色い光とともに飛び、結婚相手を探し、メスは小さい光でオスを待ちます。お互いを見つけたときに強い光を放ち合図を出しあい、オスがメスのもとに飛んでいきます。



きれいな環境が重要

きれいで流れがゆるやかな水場で、水温は15〜20度。エサになるカワニナ(写真左上)が棲んでいて、アルカリ性・有機毒物が少ない水であることが重要です。こぶしの里の水はその条件を満たしています。